

田久保 裕一／指揮 Yuichi Takubo



東京学芸大学音楽科卒業。チェロ・室内楽・指揮を学ぶ。1980年～1992年まで12年間、千葉県習志野市にて小中学校の音楽教師を務める。1992年に退職しプロの指揮者に転向。1992年～1993年、スイスとウィーンでリヒャルト・シューマツヒャー、カール・エスターライヒャー、湯浅勇治、ハンス・グラフの各氏に師事。

1994年11月、ルーマニア・ブラショフ市で開催された第4回「ディヌ・ニクレスク」国際指揮者コンクールにてグランプリ、審査員特別賞と聴衆特別賞を受賞。その後ルーマニア国内をはじめウィーン、ザルツブルク、ニューヨーク、ベルリン、カザフスタン、ソウル、ベトナム、中国など世界各地で多数指揮をしている。

これまで、国内の主要オーケストラを指揮。また全国のアマチュアオーケストラや合唱団の育成にも尽力。エネルギーで熱い人柄で、行く先々で音楽ファンをふやし、地域文化の活性化に一役買っている。また合唱指揮法DVD「指揮のABC」と「田久保先生の熱血指揮クリニック」は大好評で重版が続いている。日本指揮者協会幹事、日本吹奏楽指導者協会会員、国立音楽大学講師、2002年より中国内モンゴル民族歌舞劇院交響楽団名誉客演指揮者。

現田 茂夫／指揮 Shigeo Genda



©三浦興一

東京生まれ。千葉県船橋市立前原小学校合奏クラブにて佐治薫子先生のもとでチェロを始める。東京音楽大学指揮専攻で汐澤安彦、三石精一両氏に師事。その後東京芸術大学指揮専攻で佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。1996年神奈川フィルハーモニー管弦楽団指揮者に、2000年常任指揮者、2009年より名誉指揮者に就任。2004年には世界的チェリストロストロポーヴィチと上皇后陛下の古希祝賀コンサート等で共演し高い評価を得ている。2002年から15年は錦織健プロデュースオペラの音楽監督も務め全国公演。2011年はアンサンブル金沢と金沢歌劇座・兵庫県立芸術文化センター他（5都市6公演）で「椿姫」を公演。14年には市川右近（現三代目市川右團次）新演出「夕鶴」の全国公演も行い高評を得、16年にも再演を行った。「佐藤しのぶドラマチック・リサイタル」（全国ツアー）、「夕鶴」のカザフスタン／ウズベキスタン／東京公演、「天守物語」等、日本のオペラも積極的に行っている。アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクール（イタリア／トレント）の審査員や、NHKのFM「シンフォニー・コンサート」のパーソナリティを長年務める等バラエティに富んだ活動を行なっている。2023年からは東京芸術大学指揮科客員教授として後進の指導にもあたっている。

ウインドミルオーケストラ Windmill Orchestra

1974年、白井誠、佐治薫子両先生のご指導を受けた船橋市立前原小学校合奏クラブ卒業生の有志が集まり、「いつまでも良いハーモニーを残してゆこう」ということで「前原ウインドミルオーケストラ」として発足した。1975年6月には関係者のご厚意により第1回定期演奏会を東京赤坂のTBSホールにて山本文郎アナウンサーの司会により開催して以来、毎年夏に定期演奏会を開催している。1976年に佐治先生が習志野市立谷津小学校に移られ、同校管弦楽クラブの卒業生も加わるようになり、1977年に名称を「ウインドミルオーケストラ」とした。その後、佐治先生が市川市立鬼高小学校に移られ、同校管弦楽部の卒業生も加わるとともに、現在では佐治先生が音楽監督を務められている千葉県少年少女オーケストラの卒団生も加わり、幅広い年代層により構成されている。「ウインドミル」とは、オランダなどでみられる「風車」のことで、「ゆっくりと、しかも確実に、力強くまわり続けたい」という願いが込められている。

会場へのアクセス

電車 京成線「青砥駅」下車徒歩5分

バス JR亀有駅/JR新小岩駅より京成バス（新小52乙・53系）
「文化会館」下車

前売りチケットは下記にてご購入いただけます

- かつしかシンフォニーヒルズ
- teket（右のQRコード）



teket



HP

